

議題（２）に関する自由意見

関 連 項 目	意 見 内 容
（１）交通結節機能とサービスレベルの向上による効率的で持続可能な交通ネットワークの構築	
イ 交通結節機能の強化	・湯川地区の交通拠点の整備が必要と考えており、早急な整備が難しいのであれば、可能な範囲で集約するよう努めるべき。 ・同一名称のバス停に２回停車する現在の運用は早急に解消すべき。
ウ 乗継ぎ利便性の向上	・交通系ＩＣカードについて、ＪＲ北海道（函館～新函館北斗間）および道南いさりび鉄道への導入を検討すべき。特に新函館北斗駅の利用者属性からは、交通系ＩＣカード所持者が大半と考えられることから、利便性向上が期待される。
エ 待合環境の改善	・市電向けロケーションシステムの整備について、民間を巻き込んで実施する方策を検討すべき。
ク 快適な走行環境の整備	・公共車両優先システム（ＰＴＰＳ）やバスレーン整備を進める必要がある。
（３）交通機関相互の連携強化	
ア 路線バスを中心とした他の交通機関との連携強化	・コロナ禍による公共交通利用者の減少は致し方ないが、公共交通機関同士で利用者を奪い合うのではなく、相乗効果が見込めるような今以上の連携策を模索する必要があると考える。 ・市電－路線バス間の乗継指定停留所（場）について、十字街、松風町、千代台を増やし、利便性向上と地域の足確保を目指すべき。
（４）新たな需要創出に向けた利用促進および市民意識の醸成	
ウ イベント開催や企画切符の販売	・市電・函館バス・ＪＲ・道南いさりび鉄道が非常に意欲的に取り組んでいることが評価できる。